

令和元年度
オーストラリアへの
白石市中学生派遣事業
実 施 報 告 書



白 石 市
白石市教育委員会

目 次

令和元年度国際交流事業概要	1
友好親善訪問団日程表	2
団員名簿	3
団員感想文	
1 白石中学校 岩渕 仁琴	4
2 白石中学校 加藤 颯太	7
3 白石中学校 三宅 司紗	11
4 福岡中学校 蓬田結羽菜	15
5 小原中学校 大浦 寛汰	18
6 東中学校 佐藤 豊伸	22
7 東中学校 橋詰明日風	26
8 東中学校 山北 真緒	30
9 団 長 岡崎 祐也	34
10 副団長 高間めぐみ	35
令和元年度国際交流推進会議委員名簿	36
訪問団の写真から	37

令和元年度国際交流推進事業概要

1 事業の趣旨

オーストラリアに中学生を派遣し、ホームステイや体験入学等の交流を通して、中学生の豊かな国際感覚を育み、互いの文化・価値観・生活様式等の理解と尊重を図り、友情を育むことを趣旨とする。

2 交流（派遣）先

オーストラリア・ニューサウスウェールズ州 カウラ市

3 カウラ市の概要

シドニーの西約300kmに位置し、シドニーからは車で約5時間。ラクラン川の傾斜面に位置しており、地名はアボリジナル（原住民語）に由来し、町を見下ろす花崗岩の露出している部分、あるいは岩を意味するとされる。人口は約1万人。

第二次世界大戦中は、日本人の捕虜収容所があり、捕虜の脱走事件という悲劇が起こった。戦後は、平和と友好を願い桜の木が植樹されるなど、日本との関係が深い。

4 派遣期間

令和元年7月24日（水）～8月1日（木）9日間

5 派遣人数

市内中学2年生の男女8名、引率者2名 計10名

6 これまでのオーストラリアへの派遣の経過

- 平成5年11月 オーストラリア姉妹都市候補地視察訪問（市長、議長他）
※ 青少年を主体とした交流を提案
- 平成6年3月 白石市議員団8名がハーストビル市を表敬訪問
※ オーストラリアでは、市議会議員の中から市長が互選される制度であり、市議会議員の訪問は、市民の総意と受けとめられた。
- 平成6年8月 白石市中学生オーストラリアへの派遣事業開始。以降、新型インフルエンザの流行により中止になった平成21年度を除き、毎年派遣を実施。
- 平成6年10月23日 ハーストビル市との姉妹都市締結（市制40周年記念）
- 平成28年5月 ハーストビル市が隣接市と合併しジョージズ・リバー市となる。姉妹都市についての協議が進んでいないため、日本と関係が深いカウラ市を派遣先とすることになった。

令和元年度「オーストラリア友好親善訪問団」日程表

	月 日	地 名	時刻予定	主な行事予定	食事	宿 泊
1	7月24日 (水)	白石市役所 白石蔵王駅 発 東京駅 着 羽田空港 発	12:45 13:00 13:58 15:48 22:00	市役所1階ロビー集合 出発式 終了後バスで白石蔵王駅へ やまびこ142号 モノレールで羽田空港へ、軽食 カンタス航空(QF26便)	軽食 機内食	機内
2	7月25日 (木)	シドニー空港 着 聖ラファエル カトリック スクール	8:30 夕方	(機内で朝食) バスでブルーマウンテン経由カウラへ ホストファミリーと面会、ホームステイへ	機内食 昼	ホームステイ
3	7月26日 (金)	カウラ	終日	ホストファミリーの子供と一緒に、登校。1日体験入学 (聖ラファエル カトリック スクール) ※授業の中で訪問団による発表(各種パフォーマンスまたはプレゼンテーション・白石紹介等)		ホームステイ
4	7月27日 (土)	カウラ		ホストファミリーと1日過ごす		ホームステイ
5	7月28日 (日)	カウラ		ホストファミリーと1日過ごす		ホームステイ
6	7月29日 (月)	カウラ シドニー	朝	集合、カウラ見学 (日本庭園、収容所跡、日本人墓地など) バスにてシドニーへ移動 (途中ジェノラン鍾乳洞見学)	昼 夜	ホテル
7	7月30日 (火)	シドニー	10:00	自治体国際化協会シドニー事務所訪問 シドニー市内観光	朝 昼 夜	ホテル
8	7月31日 (水)	シドニー シドニー空港 発	9:30 16:00 17:00 20:50	荷物をホテルに預けた後、タロンガ動物園見学 ホテル到着 ホテル発 バスでシドニー空港へ⇒チェックイン後、軽食 カンタス空港(QF25便)	朝 昼 軽食 機内食	機内
9	8月1日 (木)	羽田空港 着 羽田空港 発 東京駅 着 東京駅 発 白石蔵王駅 着	5:15 10:00 11:50	(機内で朝食) 両替、スーツケースを宅急便に預ける、軽食 やまびこ133号 ※白石蔵王駅にて帰国あいさつ後 解散	機内食 軽食	

令和元年度 オーストラリア友好親善訪問団 団員名簿

NO	学校名	氏名	性別
1	白石中学校	いわぶち にこ 岩渕 仁琴	女
2	白石中学校	かとう そうた 加藤 颯太	男
3	白石中学校	みやけ つかき 三宅 司紗	女
4	福岡中学校	よもぎだ ゆうな 蓬田 結羽菜	女
5	小原中学校	おおaura かんた 大浦 寛汰	男
6	東中学校	さとう ひろのぶ 佐藤 豊伸	男
7	東中学校	はしづめ あすか 橋詰 明日風	女
8	東中学校	やまきた まお 山北 真緒	女

引率者

1	団長	おかざき ゆうや 岡崎 祐也	白石市総務部危機管理課主幹
2	副団長	たかま 高間 めぐみ	東中学校教諭

オーストラリアで学んだこと

白石中学校 岩淵 仁琴

私がオーストラリア訪問団に応募したとき

かけは、日本だけではない。別の国の文化に
対して興味があったからだ。本当に単純な興

味で初めは応募した。だが、そこから面接を
通していくうちに、出発の日が近づくうちに

興味だけではなく、この白石市のためにオース
トラリアに行、た後にびきることについて

も考えるようになっていった。

そうしているうちに出発の日がや、てきた。

期待と不安が入り混じ、っていた。だが、一緒
に行く仲間を見ていると安心することができ

た。

そして、約9時間のフライトを終え、私達

はオーストラリアのシドニーにいった。そこ
からバスに乗り、カウラという場所に向か、

た。途中でマツクドナルドで昼食をと、た。

日本と共通したメニューもあ、た。そして、

仲間やガイドさんと会話をしているバスが

止まった。ガルーマウンテンに着いたのだ。

ガルーマウンテンでは、見わたすかぎりの大自然があった。そんな大自然を見ていると心がすっきりと軽くなった。

そこからバスに乗ると、私は眠った。そして、目を覚ますと、カウラに入る直前だった。また少しうとうとしていると、ホストファミリーのいる聖ラファエルカトリックスクールに付いた。ホストファミリーはとても優しくそんな人達だった。訪問団の皆と別れホストファミリーの家へと向かった。その後、ホストシスター達とボードゲームをしたり、ネットボールをしたりして遊んだ。英語を聞き取ることは難しかったが、シスター達と遊ぶのはとても楽しかった。

次の日は一日体験入学をした。プレゼンテーションでは、皆が楽しそうだった。日本のことを思ったより、よく知っていたことにおどろいた。

授業では、英語を聞き取ることでせい

ばいだ、だが、先生がお菓子をあたししていたり、日本とはかなり違うと思、た。

土曜日には、ネットボールの試合を見て、その後、ホストファミリーの親せきの農場でクリケットやサッカー、農場見学、BBQをした。皆が私にとってもよく接してくれた。

日曜日には、日本人墓地や日本庭園を見て回、た。そこでは、日本と、カウラの関係をほんの少しだけ知ることができた。その夜にはシスター達とWiiで遊んだ。明日で別れると考えるととても悲しかった。

私が今回このオーストラリアで学んだのは一口で表すと『関係』である。他国の人とだ、と、言葉が伝わらなくても、一緒に楽しむことができる。戦争をしていた相手とだ、とこうや、と仲良く関わり合える、とそう思、た。

だから、私が一番学んだことは、相手と仲良くなりたい純粋な気持ちがあれば、絶対に仲良くなれるという当たり前のことである。

ホームステイでの発見

白石市立白石中学校 加藤 颯太

僕が、今回の訪問団に応募したとき、かけは文化の違いを深く理解し、それを学ぶにあたって英語の力も身に付けたいと思、たかろです。

僕はこれまで、学校を通して中国人のホームステイを受け入れるなどを経験し、異文化への興味がありました。ある時、オーストラリアの食文化とはなんとだろうと疑問に思い、すぐに「これだ」という物は出てきませんでした。

しかし、今回実際にオーストラリアを訪れ、現地の家族と生活し、食文化だけでなく、普段の生活や学校生活を詳しく知ることができました。

事前研修でリチャード先生に教えてもらっていたオーストラリア特有の英語にも興味を持ち、実際に現地でもたくさんのお言葉を教わることができて、とてもうれしかったです。

カウラの景色は、予想をはるかに超えた美
しきでした。朝は快晴の空と低い山々を遠く
まで見わたすことができ、夕方は青空と夕焼
けの境目がとても美しく、夜は明かり一つ無
い場所で満天の星空をながめ、日本では絶対
にできない体験をすることができました。

カウラでの1日の生活は、ミルク作りから
始まります。僕がステイした家は農家をや
っていて、庭にはペット用の牛と羊が数匹いま
した。ミルクをあげる担当のナタリーは、朝
早くから粉ミルクとお湯でミルク作りをして
いました。僕も手伝いましたが、生後4週間
のウシに手をなめられて、くすぐった
いです。

僕は、箸とうーめんを持っていき、食べて
もらいました。箸には使い慣れていなかった
ので、ナイフとフォークのように両手を使っ
て食べていました。味は「おいしい」と言っ
てくれましたが、結局、お父さんはフォーク
で食べてしまいました。

カウラでは、兄妹、または友達の仲間としても良く、年が離れている子でもとても親しく接しているなという印象を受けました。

シドニーは、日本の東京のように、先進的で多文化社会で楽しいけれど少し疲れてしまいました。それに比べてカウラは、急がず、焦らず、スーパーマーケットなどでささいなことでもソーリーとすぐに謝り、どららも気持ち良く買い物ができるような環境でした。

このように、同じ国の中でも少し離れると環境が全く変わってしまうということに驚きました。

そんなオーストラリアですが、クリスマスが夏に来るのでホワイトクリスマスの日本がうらやましいとホストブラザーに言われたり、今、寿司ゲームでシドニー中に寿司屋があったり、お父さんが寛大でジョーク好きだったり、それを見たお母さんが呆れたり日本と同じ所や違う所をたくさん発見することになりました。

オーストラリアで学んだ違いを、文化祭で発表したり、学校の中でも広く伝えることができるように新聞にまとめたり、さらに、来年オーストラリアに行く人の道しるべとなるように伝えていけたらいいなと思います。

今回の訪問は、僕にとって、自分の考え、将来の道を大きく広げてくれたとても良い機会だったと思います。これから、まとめること、伝えることを自分の使命として、頑張っていきたいと思っています。

オーストラリアの体験を通して

白石中学校 三宅 司紗

私が今回のオーストラリアの訪問団に応募したきっかけは、たくさんの方々と関わりたいという強い思いがあったからです。私は、小学校のころから「国際交流祭り」という、毎年東北大学で行われているお祭りに参加していました。そこでは、私の通っている習字教室のみんなで習字を教えていました。そのような様々な経験から、次第に外国に興味を持ち始め、今回の訪問団に応募させていただきました。

市役所でのALTの先生方の4回の研修では、日常生活の会話や自己表現の仕方を学びました。オーストラリアでは、焦ってばかりでなかなか話すことができず、不安でいっぱいでした。でも、4回の研修内容などを段々と思い出し、数日後には焦らずに話すことができるようになりました。

オーストラリアの学校やホームステイ先の

家で、日本文化や白石市のことを教えたとき
に、とても詳しく知っていたことに驚きました
た。ホストファミリーの家で折り紙の作り方を
教えたときにも、ホストファミリーが「パ
ウニキョ」の作り方を知っていて、みんなで
楽しく遊んでいました。さらに、はしの使い
方も知っていて、「日本文化って、世界に知
れ渡っているのだね」と感じました。と同時
に、「私もオーストラリアのことをしっかりと
と学んで日本に帰らなくてはいけない」と強
く思いました。

私は、異国の地であるオーストラリアに行
って、様々なことに触れ、それを見て、感じ
てきました。初めての海外ということもあり、
全ての景色が新鮮に目に映っていました。一
番の日本との違いは、やはり「言語」です。
オーストラリアでは、周りは英語だけで、日
本語がとても恋しくなりました。ですが、日
がたっていくうちに、言葉がわからなくても、
完璧に話すことができなくても、単語だけで

話したり、見振り手振りで伝えようとしたり、
「伝えたい」という思いがあれば、何とでも
できると思いました。

今回の経験は、私の将来の夢の「学校の先生」に一番大きく生かせると思います。私は社会が英語の先生になりたいと思っています。社会でも英語でも、オーストラリアで学んだ歴史や文化、英語を最大限に生かせると思います。それだけではなく、これから文化祭などで発表する機会がたくさんあると思います。そのような機会でも、様々なことを伝えていき、これからの将来に役立てていこうと思っています。

最後に、このオーストラリアの訪問について、様々な面でサポートしていただいた。A.L.Tや市役所の方々、学校の先生方、親や助けていただいたたくさんの方々へ感謝の気持ちをお知らせと伝えていきたいと思います。この事業に関わったたくさんの方々に、本当にありがとうございました。

れからもがんばっていきなさいと思います。

オーストラリアでの体験を通して

福岡中学校 2年 蓬田 結羽菜

私は、今回のオーストラリア訪問を通して
将来の夢について改めて考える事ができまし
た。訪問団員に応募したま、かけも将来の夢
を叶えたいという思いからでした。

私の幼い頃からの夢は、「ディズニーで働
いて多くの人を笑顔にしたい」という夢でし
た。でも、ディズニーとは世界中の人が来る
場所で当然、英会話能力、コミュニケーション
能力が必要です。そこで私は英語を習い始
めました。が中学2年生になるまでALTの先
生としか外国の人と話した事はありませんで
した。そこで、私は今回のオーストラリアの
話を受けて挑戦してみようと思いました。

でも、事前研修に来てみると私が知ってい
る人が誰もいなくてとても緊張しました。結
団式まではすこく緊張していてもうまく話がで
きなかったり、頭が回らなかったりして大変
でした。

出発当日。楽しみと不安がぶつかり、複雑な気持ちになっていました。市役所での出発式の際は本当に緊張していてさらに複雑な気持ちになっていましたが、新幹線から空港。空港からオーストラリアの空港へと移動するたびに不思議と不安や緊張は消えていきました。

バスでカウラまで約5〜6時間。バスの中ではバスガイドのミディ、中島さんがカウラと日本の結びつき、歴史について詳しく話してくれました。そして、カウラの聖カトリッククラフ・エルズワールに到着してホストファミリーとの面会で私は、リッチモンドさんの家でホームステイをする事になりました。

日本語のよい生活は辛くて1日1日過ぎしていくたびに楽しさは増していくけど自分には英会話力、コミュニケーション力が足りない事に気づき、改めてどうすればいいのか考えました。

ホームステイ最終日はまたこの家にいたい

と思えるほど楽しくて最高の体験でした。

楽しかった9日間はあっという間に過ぎていきました。でも、忘れられない思い出はたくさんでまた体験でした。

私はこの体験で将来の夢を叶えるための大きな一歩になったと思います。これから、地道に英会話能力やコミュニケーション能力を高めていって将来の夢を絶対に叶えたいです。

このような体験は誰でもできる事ではないのでこの経験を忘れずに将来の夢に向かって努力していきたいです。

				My Trip to Australia.			
				白石市立小原中学校		大浦	寛汰
				僕がオーストラリア訪問団に応募した理			
				由は、コミュニケーション能力を高めたかっ			
				たからです。僕は人の前に出て話す行事や、			
				初めて会う人と話す事が苦手です。そのこと			
				を克服するために、この事業に挑戦し、見知			
				らぬオーストラリアで自分を高めたいと考え			
				ました。			
				訪問初日に、カウラで初めてホストファ			
				ミリーに会い、とても緊張しました。しかし、			
				今自分の持っている英語力を試してみたいと			
				いう気持ちが高まり、迷いが吹っ切れて他の			
				誰よりも先に、ホストファミリーに話しかけ			
				ることができました。自分の話す英語が通じ			
				た時は、とても嬉しかったです。			
				二日目には、ホストファミリーと一緒に、			
				カトリックスクールに行き、授業を受けまし			
				た。日本の授業風景とは異なりリラックスし			
				た雰囲気や、先生と生徒のやり取りがフレン			

ドリーであることが印象的でした。次に、僕たちの考えた日本に関するクイズをオーストラリアの生徒に出題しました。僕は、「節分」の担当をしました。クイズはとても楽しんでもらえ、日本への理解を深めてもらえて良かったです。その後、一緒に伝統的な日本の遊び「竹とんぼ」をしました。オーストラリアの生徒たちは、初めてのはずなのに、皆、上手にできていたのですごいと思いました。また、日本から持参したお菓子を景品として配り一緒に食べました。僕は、カントリーマームとじゃがりこを持っていきましたが、特にカントリーマームが人気で嬉しかったです。

日本との違いを強く感じたのは、水についてです。カウラでは水不足のため、水は大切でした。例えば、シャワーの時は少しだけしか水を使いませんでした。小原ではいつも新鮮な湧き水を飲んでいるし、シャワーも水を気にすることなく使うことができます。僕たちは幸せだと感じると同時に、水の大切さと

日本の豊かさを学びました。
 一つ目は、ホストファミリー
 に英語が通じたことです。自分が持っている
 英語力で会話し、返事が返ってきたので、英
 語を頑張って勉強して良かったと思いました。
 しかし、ホストファミリーから質問された時
 など、うまく聞き取れず会話が長く続かなか
 ったのは悔しかったです。自分はまだまだだ
 なと思いました。二つ目は、オーストラリア
 の広大さです。ホストブラザーが、「バイク
 に乗って野生のカンガルーを見に行こうよ。」
 と言った時は、自転車のことだと思いました。
 しかし本物のミニバイクのエンジンをかけ始め
 たので、驚きました。とても広い牧場内は、
 免許証が無くても乗れました。楽しかったで
 す。土地の狭い日本ではまずできない体験だ
 と思いました。
 三つ目は、人々が明るく気さくな人柄の
 方が多いことです。ホストファミリーだけで

無	く	学	校	で	も	生	徒	た	ち	が	会	っ	て	間	も	な	い	の	に
気	軽	に	明	る	い	感	じ	で	話	か	け	て	く	れ	ま	し	た	。	世
界	は	言	葉	だ	け	で	な	く	、	歩	み	寄	ろ	う	と	す	る	ハ	
ー	ト	が	あ	れ	ば	、	通	じ	合	え	る	と	感	じ	ま	し	た	。	
		4	日	間	と	い	う	短	い	期	間	で	し	た	が	、	ホ	ー	ム
ス	テ	ィ	先	で	は	本	物	の	家	族	の	よ	う	に	温	か	く	迎	え
ら	れ	、	も	っ	と	こ	の	家	に	い	た	い	と	思	い	ま	し	た	。
		こ	の	体	験	を	基	に	、	小	原	小	中	祭	、	学	校	、	家
庭	で	オ	ー	ス	ト	ラ	リ	ア	と	日	本	の	違	い	や	、	オ	ー	ス
ト	ラ	リ	ア	人	の	気	さ	く	な	人	柄	、	温	か	い	ハ	ー	ト	が
あ	れ	ば	通	じ	合	え	る	こ	と	な	ど	を	伝	え	た	い	と	思	い
ま	す	。	そ	し	て	、	今	後	オ	ー	ス	ト	ラ	リ	ア	と	日	本	の
交	流	が	さ	ら	に	深	く	な	る	よ	う	に	少	し	で	も	貢	献	で
き	た	ら	い	い	な	と	思	い	ま	す	。								
		こ	の	よ	う	な	貴	重	な	体	験	が	で	き	た	の	は	、	家
族	、	市	の	方	々	、	先	生	方	、	ALT	の	先	生	方	な	ど	沢	
山	の	支	援	が	あ	っ	た	か	ら	で	す	。	と	て	も	恵	ま	れ	た
体	験	が	で	き	た	と	思	い	ま	す	。	本	当	に	僕	は	幸	せ	者
で	す	。	こ	れ	か	ら	も	英	語	の	勉	強	を	続	け	、	世	界	に
目	を	向	け	続	け	る	大	人	に	な	り	た	い	で	す	。			

20 × 20

Australia is the best

東中学校 佐藤 豊伸

僕が訪問団員に応募した理由は、外国人に話しかけられた時に、英語でしっかり応対出来る新幹線の運転手になりたいという夢があるからです。グローバル化が進み外国人と接する機会が多くなると思うので、外国人とコミュニケーションをとれるよう、外国の文化を体験し、沢山のひとと英語で会話してみたいと思ったからです。

選考の面接は、今までにない程緊張しました。か、自分なりに一生懸命取り組みました。数日後、結果が届き、自分がオーストラリアに行けるといふ文書を見た時は、とてもとても嬉しく、家族で大騒ぎになりました。

出発するまでに、4回の事前研修を行い、訪問団員との絆を深めていきました。そして出発の日。出発式には沢山の方々が見送りに来てくださいました。白石市長様からの挨拶の中で「白石の代表であるが、日本の代表で

ある」との話に、身が引きしまる思いで、バスに乗り込みました。

22時羽田発シドニー行の飛行機に乗り、いよいよ出発です。キャビンアテンダントに英語で質問しようと準備していましたが、機内は全て揃っていて、会話する必要がないう程、快適でした。9時間後、シドニー国際空港に到着。ホストファミリーと対面しました。その時は英語でしっかり挨拶出来たので良かったです。ホームステイ先での夕食は食べる前に、手を組み合わせてお祈りをしてからいただきました。日本とは形が違いますが、命をいただく事に対する感謝の気持ちは同じなんだなと思いました。夕食の後、日本からの土産を渡し、家族や白石の写真を見てもらい、とても喜んでもらえたので、自分も嬉しく、これからの生活が楽しみになりました。

翌日は、カウラの学校で1日を過ごしました。僕達訪問団による発表の後、クイズを行いました。僕は、クイズの中で剣道の迫力を体験

してもらっていたのですが相手にしっかりと伝わっていなかったようでチャンバラになってしまいました。でも皆さん楽しんでくれたようなので、良かったです。授業の体験では、先生の言っている事がわかりませんでした。が、最後の方では少しだけわかってきました。先生が机の上に腰かけて教えていた事は、衝撃的でした。皆、パソコンを上手に使い授業を受けていました。昼食はお弁当を持って来て、好きな所で食べていました。日本の学校とは違う所が沢山あって、自由が多く、ルールが甘いのかなど、驚きの連続でした。

学校が終わり、ホストマザーが迎えに来てくれました。僕を受け入れてくれたホームステイ先は農場で、私有地がとっても広く羊を1000頭も飼っていました。バイクで移動するので僕も乗り方を教えてもらい、農場を走り回りました。川も流れていて釣りもしました。夜は、訪問団とホストファミリー達が集合してキャンプファイヤをしたパーティーが開か

れました。カウラの夜空はとてもきれいで、
星が沢山輝いていました。最後の夜は、テント
を張って外で眠りましたが、季節は冬です。
とても寒くてなかなか眠れませんでした。そ
れも良い思い出になったと思います。

ホームステイでは、4日間でした。英語た
けの生活に不安はありましたが、ジェスチャー
をしながらい、沢山の英会話をして来れたと
思いました。そして言葉が通じなくても楽し
く過ごせましたが、もっと英語で話せれば、
もっと楽しくなるんだろうかと感じました。
行くまではいろいろなことが不安になりま
したか、何も心配する必要などなかった
と思います。これから、何事も積極的に
チャレンジする事と、仲間と協力し合う事の
大切さを忘れず自分の夢が叶うよう努力して
いきたいと思います。

最後に、今回の派遣事業に参加させていただ
きありがとうございました。関係する皆様
方の御協力に、深く感謝いたします。

オーストラリアでの体験

東中学校 橋詰 明日風

私は、英会話を習っていて、英語を話すことが好きだったことと海外に興味を持っていたこともあり、小学6年生の頃にこの事業のことを知ってから、参加したいと強く思っていました。オーストラリアの方とたくさん話して英語力を伸ばしたいと思い応募しました。訪問団に選ばれたと知った時は母と大喜びしました。

事前研修では、日常で使える英語の勉強やカトリックワークスで発表する内容などを考えました。オーストラリアに行った時の事を想像しながら英語の勉強をしていると、楽しみが持ちは大きくなっていきました。

しかし、学校でホストファミリーと対面した時、あんなに頑張って話そうと思っていたのに、いざホストファミリーを前にすると緊張と不安で、全然言葉が出ませんでした。

でも、ホストファミリーやカトリックワーク

ールの友達はたくさん話しかけてくれて、私
が英語を理解していないと分かる、ゆっく
り、簡単な英語で話してくれました。優しい
人達ばかりで感動しました。

私は話しかけてもらってばかりじゃいけな
いと思い、疑問に思った事は積極的に質問し、
話しかけられた時にできるだけ長く会話を続
けられるように、ジェスチャーを使いながら
伝えようという気持ちを強く持って頑張りました。

カトリックスクールで一日過ごして思った
事は、日本よりも堅苦しさ加なく自由な雰囲気
気だなと思いました。授業の様子を見ていて
も、先生とおしゃべりする感覚で意見を言っ
ていたり、クイズに正解するとお菓子をもら
えたりしました。あと、日本について関心を持
っている人が多いなと思いました。廊下を
歩いていたら、日本語で挨拶してくれたり、
書道を教えた時には漢字を知っている人が結
構いました。関心を持ってもらえてるのが分

か、てとても嬉しかったです。

オーストラリアで過ごした中で一番印象に残っているのはホームステイをした事です。

私は、2つの家族にお世話になりました。

最初の3日間を共に過ごしたアキコの家族とは、バーベキューをしたり、カンカルーを見に山に登ったり、フットボールの試合を見に行ったりしました。オーストラリアならではの体験をたくさんしました。家族の仲がすごく良くて、私の事も本当の家族のように接してくれました。

最後の1日を共に過ごしたナタリーのお家はアキコの家族と同じで農家さんでした。私はナタリーと一緒に農家の仕事のお手伝いをしました。特に印象に残っているのは、モーターバイクに乗って牛を追いかけた事です。牛を追いかけて移動させることで運動をさせているんだそうです。最初はお父さんと一緒に乗りました。とても豪快なお父さんでスピードが速くてスリルがすごかったです。慣れ

てきた頃に自分で運転させてもらいました。

私は力加減が分からずスピードを出しすぎてしまいい、ワレインジーンドライバ－と言われました。最初は自分で運転するのは怖かったけど、なかなか出来ない体験をできたのでチャレンジして良かったです。こちらの家族もとても仲が良くて、面白い家族でした。

私は、今回の海外派遣事業で、貴重な体験をたくさんしました。海外での生活は、言語の壁がありました。でもその壁は言葉が通いなくても、伝えようとする気持ちがあれば乗り越えられるんだなと思いました。また、日本を客観的に見ることで日本の良いところに気付けたと思います。

この旅で学んだことをこれからの生活や、10月にオーストラリアの方か日本に来る時、将来の事に生かしたいです。また、新しくできた友達との繋がりを大切にし、より仲を深めていきたいです。

I LOVE AUSTRALIA

白石市立東中学校 二年 山北 真緒

私が、訪問団に応募した理由は、英語でのコミュニケーションを高めたり、海外を見て、視野を広めたかと思ったからです。

事前研修では、オーストラリアの学校で行う英語のプレゼンについて皆で話し合い、楽しんで聞いてもらえるよう、たくさん工夫を考えました。

オーストラリアに出発する前日は、楽しみな気持ちと不安な気持ちが入り乱れ、複雑な気持ちでした。でも、オーストラリアに着いた途端、これからの日々に期待する気持ちが高まっていききました。

カウラに着き、ホストシスターと初めて会話をしたときは、緊張しました。でも、話してみると今まで習ってきた英語がし、かりと通じることが分かって、少し自信を持つことができました。

翌日の学校体験では、1時間目に白石市や

日本のことを紹介しました。プレゼンでは、カウラの学校の生徒や先生が、熱心に私たちの話を聞いてくれました。日本の文化紹介では、折り紙の鶴を紹介しました。しかし、多くの方が折り方を知っていて、とても驚きました。オーストラリアの人は、日本の文化に興味を持っていてくれるのかと思い、嬉しく感じました。

2時間目からの学校体験では、様々な授業を受けました。社会の授業の時は、先生がオーストラリアの生き物や観光地、有名な人物の動画を見せてくれました。オーストラリアの人は親切で優しい雰囲気がありました。

オーストラリアの学校の雰囲気はゆったりとしていて、のびのびと学んでいる印象を受けました。日本との違いは、学校制度や学校の造り、教室の使い方などがありました。しかし、学校での服装や授業の様子、学校で過ごす一日の流れは日本と似ていると思います。一日体験してみて、オーストラリアの教育制

度にも、日本の教育制度にも、それぞれの良
さがあると思いました。

ホームステイでは、生活していく中で日本
とは全く違う食生活や、生活習慣などを体験
することができました。例えば、農家ではな
くても馬や豚、鶏などを飼育していることや
庭の敷地がとっても広いこと、お風呂はシャワ
ーで済ますこと、野菜にドレッシングは使わ
ないことなどです。スーパーマーケットに行
った時は、レジの構造が日本とは変わって
いて驚きました。土曜日に行ったオーストラリ
アフットボールの試合は迫力があり、とて
も楽しむことができました。ホームステイを
通じ、多くの驚きや発見をすることができ、
とても有意義な時間を過ごすことができました。
また、英語でコミュニケーションをとる
ことの難しさも実感しました。

シドニー観光では、白石とは違う、古い建
物と新しい建物が混在した大都会を目にし、
世界は広いんだと改めて思いました。8人の

仲も深めることができたと思います。

今回のオーストラリア派遣では、たくさん
の刺激を受けることができました。視野も大
きく広げることができたと思います。しかし、
ホストシスターや学校の友達と、もっとコミ
ュニケーションを取れたのではないかという
後悔もあります。だから、英語の勉強を一層
頑張り、英語で表現できることをより増やし
たいです。そして、外国の方と話す機会を見
つけて、積極的に話せるようにしたいです。

私は、今回の経験を周りの人に伝えて共有
していくと共に、普段の生活や自らの夢の実
現へ生かしていきたいと思っています。

最後に、お世話になった方々、貴重な体験
をさせて頂き、本当にありがとうございました。
た。

オーストラリア友好親善訪問団の引率を終えて

オーストラリア友好親善訪問団団長

白石市総務部危機管理課 岡崎 祐也

今回、7月24日（水）から8月1日（木）までの9日間、訪問団の引率として参加しました。私自身、10年以上前に海外への訪問経験はあるものの、英語を話すことはできない、中学生の引率という責任の重大さもあり、任命をされたときは大変不安でありました。しかし、オーストラリア訪問前に中学生との研修に参加させていただき、市内各中学校から選抜されたにも関わらず、生徒たちはすぐに打ち解け、何よりも訪問を楽しみにそして真剣に研修へ取り組む姿を見たとき、この訪問が将来において何かのきっかけになってほしい、生徒たちがオーストラリアを満喫できるようサポートしたい、そんなことを思いながら訪問の日を迎えました。

オーストラリアでは、まずカウラ市を訪問し、カウラで起こった「戦争捕虜脱走事件」について詳しく知ることとなりました。戦時中に受けた軍事教育や軍律という様々な要因は考えられるものの、日本人が起こしてしまった悲しい事件に対し本当に残念な気持ちと二度と同じ過ちを繰り返さないために自分自身が何をすべきか何ができるのか考えさせられました。生徒達もそれぞれ戦争や平和に対して感じるものがあつたと思います。

ホームステイや体験入学等でお世話になった聖ラファエルカトリックスクールでは、学校全体で私たち訪問団を温かく迎え入れていただきました。今年は、授業の1時限をいただき、白石の生徒たちは白石紹介等のプレゼンテーションを行いました。生徒1人1人が訪問前の研修の成果を発揮し、堂々たる振る舞いでプレゼンや日本文化の紹介を行い、大成功のうちに終了することができました。

またホームステイでは、生徒たちは話している英語が理解できない、伝わらないといった「壁」に早速ぶち当たったものの、時間を重ねるごとに徐々に慣れ、土日の休日では言葉が伝わらない中でもホームステイ先の子ども同士で遊んだり、年下の兄弟の面倒をみたりといったごくごく当たり前の生活から言葉や文化を理解しているのだと感じました。

今回の訪問で、私たち訪問団はホームステイや体験入学、言葉やオーストラリアの観光、文化等に触れることができ、改めて日本とオーストラリアの違いや、お互いの国の良いところ、悪いところを確認できたものと思います。

この事業は、生徒の国際感覚や互いの文化等の理解と尊重、そして友情を育むことを目的としておりますが、そもそも普段のありのままの日常生活をリアルに体験できる機会や現地の文化や習慣を学べる機会は、そう多くはないものと思います。また、カウラ市を訪問できるということは、現在の日本と過去の日本を知るという意味でも大変有意義であったと考えます。団員の皆さんには、この訪問を機に知り合えた仲間とのつながりを大切に、友情の絆がいつまでも続いてほしいと願っています。

最後に、プレゼン資料の調整や9日間に渡る生徒へのフォローをいただきました引率の東中学校高間先生、総務課、教育委員会学校管理課、学校関係者の皆様、長期不在の間フォローをいただきました危機管理課の皆さんに心から感謝を申し上げます。

このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

オーストラリア友好親善訪問を終えて

白石市立東中学校 高間めぐみ

令和元年度の訪問団として、白石市内の中学2年生8名と市職員の岡崎団長の10名で、9日間のオーストラリア訪問をさせていただきました。訪問先がカウラ市に変わって3年目、国際交流をさらに良いものにする市職員の方々の情熱を感じながら、事前研修から一緒に準備をさせていただきました。

今年度は、友好親善活動の中心である出し物を、お世話になるホストファミリー対象ではなく、聖ラファエル校の生徒に披露するという事で、新しい企画の内容を訪問団全員で意見を出し合い決定しました。白石市や日本文化をプレゼンテーションで紹介する企画では、ラファエル校の生徒により楽しんでもらうためにクイズ形式にしました。また、後半の日本文化を体験してもらう企画では、「書道、折り紙、昔の遊び」の3つの班に分かれて紹介し、どんな英語を使い、どのように体験してもらうかなどを生徒同士で考え、ALTの助けを借りながら作り上げました。限られた時間の中で次々案を出し、協力して出し物を完成させる団員の姿はとても頼もしく、当日の交流がとても楽しみになりました。

いよいよ夏休みに入り、訪問する日が来ました。8名の生徒はとても仲が良く、常に元気で、白石市からカウラ市までの長い道中、全てのことを楽しんでいました。初めての事ばかりで、わくわくドキドキしながらも、好奇心旺盛な彼らは多くのことを見聞きし、吸収していたと思います。平らでどこまでも続く美しい田園風景を眺め、生徒と一緒にオーストラリアに来られた喜びを実感していました。

しかし、カウラ市ラファエル校の到着とともにホームステイが始まり、生徒は英語だけが飛び交う世界に少し戸惑いながら、各家庭へと向かいました。言葉よりも気持ちが大事だと言われても、やはり言葉が分からないのは本当に辛いです。自分の初めてのホームステイを思い出しながら、「何とか生き抜けよ！」と祈りながら一晩を過ごしました。次の日は、一日学校体験の日でした。心配していた生徒は案外元気そうで、対面式や授業に臆することなく取り組んでいました。文化紹介授業では、ラファエル校の生徒皆が意欲的にクイズに参加し、全員で盛り上がることができました。また、文化体験も生徒は準備してきた英語を一生懸命使いながら交流を図り、ラファエル校の生徒と先生方に楽しく日本文化に触れてもらうことができました。校長先生からも生徒の活動を大いに褒めていただき、とても誇らしく思いました。その後、生徒は5時間の授業を体験し、土日各自ホストファミリーと過ごし、英語のシャワーをたくさん浴びましたが、粘り強く交流を図り、たくさんの経験と良い思い出を作ってきました。彼らの適応力は本当に素晴らしいです。これから、英語だけの環境でコミュニケーションが取れたという自信と「もっと英語が話せれば、もっと楽しめたはず」という悔しい気持ちを持ち、今後の英語学習を継続してほしいと思います。自分の思いを正確に伝えられる大人になってほしいと思います。

カウラ市では、もう一つ印象に残る出来事がありました。それは、戦争捕虜収容所跡地と日本人墓地を訪問し、75年前に死を選んだ日本人兵士に手を合わせる事ができたことです。恥ずかしながら、オーストラリアにこんなに悲しい戦争捕虜の歴史があることを知りませんでした。ホストファミリーのキャシー先生と跡地を歩きながら意見を交わし、日本兵がどんな思いでこの地で亡くなったのか一緒に思いを馳せました。また教育者同士、悲惨な歴史を繰り返さないために戦争について学ばせる機会を作っていくこと、平和を願う教育を行っていくことなどを話しました。この貴重な経験を自分の今後の指導、英語の授業に活かしていきたいと思います。

訪問の後半では、ジェノラン鍾乳洞やシドニー市内の観光地を見学させていただきました。オーストラリアの大自然と大都会の両方を堪能させていただき、生徒と共に、本当に充実した9日間となりました。現地ガイドの中村さんにも生徒共々大変お世話になり、心から感謝しております。このような素晴らしい機会をいただき、全ての関係者の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

令和元年度国際交流推進会議委員名簿

役 職	氏 名	所 属	職名
委員長	なるせ けい 成瀬 啓	小原中学校	校長
副委員長	やぐち あきら 矢口 晃	大平小学校	校長
委 員	ささき まなか 佐々木 愛香	白石中学校	教諭
委 員	たかの ゆみえ 高野 弓絵	福岡中学校	教諭
委 員	なかい ともこ 中井 朋子	小原中学校	教諭
委 員	いちじょう あきこ 一條 亜紀子	東中学校	教諭

～ 訪問団の写真から ～





令和元年度オーストラリアへの 白石市中学生派遣事業実施報告書

令和元年11月 発行

編集発行 白石市教育委員会 学校管理課
住所 白石市大手町1番1号
電話 0224-22-1342